

責任感ある者とは、創造者の立場に立ち創造者に協力する者のこと

すべての国家的犯罪者に言う——「甘ったれるな、卑怯者ども！」

Greatchain

November 12, 2023

私の書くエッセイの中から、かなり古いものを選んで紹介して下さる、奇特的な協力者の方がおられ、これなどは、ちょうど5年前の11月12日に、「責任感ある者とはどういう者のことか——前SOTN記事訳注への補遺」として書いたものだが、そもそも何が問題かがますます明らかになってきた今、これを更に敷衍して書くことにする。

<https://ameblo.jp/greatchain/entry-12418534571.html>

まずRTの記事(11・11)を読んでいただきたい：

「イスラエルは西洋の〈甘やかされた子ども〉のように振舞っている——エルドアン」 <https://www.rt.com/news/587078-turkiye-erdogan-israel-spoiled-child/>

イスラエルはハマスの、境界を越える攻撃に反撃してきたが、それは事実上、西側の承認があったからだ、とトルコの指導者は言った。

トルコの大統領 Recep Tayyip Erdogan は、現在の「パレスチナの大虐殺」に対する西側全体の無為無策を攻撃し、イスラエルは政府は、10月7日のハマスの境界を越える攻撃に対し、「甘やかされた子ども」のように振舞っていると言った。

エルドアンは、サウジアラビアの首都リアドで、土曜日に行われた合同アラブ-イスラム・サミットで発言し、西側諸国のダブルスタンダードを攻撃し、彼が今見ているのは、他の地球的紛争への対処と反対のものと強調した。彼は加えて、「イスラエル政府は西側の甘やかされた子どものように振舞っており、彼らは自分の与えたダメージを償いをしなければならない」と言った。・・・

「甘やかされた子ども」とは、自分の責任を自覚せず、他者に責任を転嫁する卑怯者のことである。エルドアン大統領は、イスラエル首相ネタニアフの深層心理（と地上の悪の発

生の機微)を、よくぞ言い当てたというべきである。ネタニアフは、自分は、この世の支配者である New World Order 陰謀団に仕える身だから、私に直接の責任はない、これは西側世界全体の責任だ、と言いたいのであろう。同じことをバイデン大統領も言うだろう。バイデンは、自分は handler (主人) に従って動いていると公言しているからである。西側世界とは、すなわち「シオニスト-アングロ-アメリカン」支配の世界ということで、この者たちの頂上にいるのは、悪の頭領として神に敵対する者たちである。すなわち我々の世界は、神に仕える者と悪魔に仕える者たちで構成されており、そのほとんどが後者だと言える。神や悪魔など自分は無関係だという者も、深層心理では、全員がそれを知っていると思われる。

神に反逆する者とは、実は、神に甘えて駄々をこねる犯罪者たちのことで、この世の悪はこの者たちから始まり、そこから増殖したものだ我々は教えられている。旧約聖書にあるアベルとカインの話は、人間の深層心理のたとえとして読める。アベルは神に供え物をするのに畜産業による産物を捧げたが、カインは農業による地の産物を捧げた。すると神はどういうわけか、アベルの捧げものだけ受け取って、カインの捧げものは受け取らなかった。カインはこれに対し「憤って」(と聖書は言う)、嫉妬から兄弟のアベルを殺してしまう。これは理不尽な話のように見えるが、このパターンが人類の歴史を通じて、犯罪を増殖して今日に及んでいる。今まさに国家が2つに分かれ、我々の目の前で、大量の子ども殺しが起こっている。

そしてこの「甘やかされた子ども」である犯罪者は、創造者(親)の立場に立つという能力の欠けた、無責任な者たちである。彼らは逃亡奴隷のように振舞い、世界中に犯罪を撒き散らしている。これは我々の日常生活でも、海外全体を見ても起こっているではないか？それは「悪い人々」や「悪い行い」というよりも、「悪」そのもの(pure evil、absolute evil、unadulterated evil=交じりもののない悪)というべきもので、子どもの生贄を要求するような超越的悪、すなわちサタンである。それが我々の戦うべき真の相手である。

現在起こっている大量の子供の犠牲は、アメリカやヴァチカンで横行する隠されたペドフィリアと、本質的に同じものである。プーチンのロシアは、そのカラクリを(おそらくトランプ以上に)知っていて、それと戦うことが自分たちの使命だと言っている(西側やそのメディアが、なぜそれを無視するかというと、自分がその一部だからである!)。悪はほっておけば自然に滅びるというようなものではない。我々が騙されてきた特にひどいプロパガンダは、「アメリカという世界の警察が世界の悪を滅ぼしてくれる」というものだった。さすがにそれを信ずる日本人は現在いないだろう。しかし、そう信じさせようと必死になっている者たちが、今でも存在する。そしてそこから多大の混乱が生じている。

これは言いにくいことだが、日本政府がそのプロパガンダの信者ではないかと思われる。彼らは、ロシアのウクライナ侵攻が始まったとき、ロシアの事情を聴くことも調べることもなく、問答無用であるかのように、世界を扇動してロシアの悪を説いて回った。これは、バイデン政権を**正当な**世界の警察と認め、西側世界の一員であることを誇るためだった――としか考えられない。

一国の政府の取る方針として考えにくいことだが、現在もそうなのであろう。バイデン＝ネタニアフ連合が「純粹悪」サタン国家であることが判明した今、日本政府はどうするつもりだろうか？ 何よりも気懸りなのは、世界の国際舞台で、日本の価値と信用が急落することである。日本人は、信念というものを全くもたず、常にふらふらしながら生きており、ナチスにも共産主義にもサタン主義にも、容易く雷同する危険な民族だという印象を、一般に与えるのではないかと危惧される。オリンピックでも何でも、日本が先頭に立つ世界大会は、敬遠され警戒されるのではないだろうか？

ところでウクライナのゼレンスキーはどうなっているか？ 多数の情報による限り、彼は自国からも他国からも見限られ、ナチスとして断罪され、孤立無援の状態にある。トランプに会見を求めたが断られ、ネタニアフにさえ会うことができなかった。いまだに彼を祖国を救う英雄のように言っているメディアは、いい加減にすべきである。

最後に、一度ここで示した、ルシファー（サタン）を三角形の頂点とする、この世界の支配構造図を採録することにしよう。ここには、アメリカを中心とする政治機関や国連機関が、「悪」の頭を中心として侍っている。これが今、すでに機能していないものも含めて、音を立てて崩れようとしている。我々はこの崩壊の促進のために働かなければならない。

次ページ⇒

